

地域包括支援センター

だより



「認知症介護家族のつどい」より（認知症の人と家族会 熊本県支部）

【妻が認知症 これからどうすれば…】

…妻、77歳。4月に軽い脳梗塞。人の名前・時間がわからなくなった。昔の事を繰り返し言う。入院中に病院から、「認知症ではないでしょうか？」と言われた。以前はよく興奮状態にあったのだが、現在は興奮しなくなった。逆に何もしなくなってしまったのが心配である。

今後、在宅生活に戻ってから、どのように対応して行けばよいのか分からない。入院前はデイサービスを週1回利用していたが、退院後は利用できるだろうか？

また、以前は民生委員をしていたこともある為、認知症であることを周りの人に知られたくないという気持ちがある。

【つどい参加者よりアドバイス】

■本人が興奮状態にある時の対応の仕方は？

○反発をしてはいけません。本人が穏やかでいられることが大事です。

○本人と自分の考えを一緒だと思っではいけません。また、認知症の方は「不安」という気持ちが強いので、その「不安」という気持ちに向き合っていかなければならないでしょう。

■妻に対して我慢できないような状況になった場合は？

○一人で悩まずに「周囲の助け」を求めることも大事です。その為には、周囲の方々に妻の状態を伝えておくことで、「隠す」ことへのプレッシャーを軽減することができます。

○本人の身体が動くうちに、周りの目を気にしないで外出してあげてみることを考えてみてはどうでしょうか？ 最近では、認知症に対する考え方も変わってきているので、一人で悩まずに周りの人達と助け合っていくことも必要です。また、本人の介護をすることは大事ですが、ご自分のリフレッシュも大事ですので、趣味を大切にしていけるようにしてはどうでしょう。

【お問い合わせ】 地域包括支援センター（役場 健康推進課内） TEL (62) 8222

●「商工会の日」記念事業

～村をきれいに美しく～

毎年6月10日は、商工会法が施行されたことに由来し「商工会の日」と呼ばれ、商工会の記念日となっています。全国各地の商工会がその記念行事として、さまざまな地域貢献活動を行っており、南阿蘇村商工会でも毎年その時期には「村をきれいに！」を合言葉に、奉仕活動を行っています。

本年も6月9日に村内の清掃作業を実施しました。当日は、午前6時から約100人の参加者が白水、久木野、長陽地区に分かれ、空き缶・タバコの吸殻・ビン・ビニール・雑誌など分別をしながら、軽トラック3台分のごみを回収しました。日頃何気なく通っている道にはかなりのゴミが落ちており、清掃美化活動の意義あることをつくづく実感しました。

また、その日は女性部による「花いっぱい運動」も実施。プランターへの土入れから植え込みと、部員一丸となり親睦を図りながら作業を進め、花の苗300本を定植しました。ポーチユラカ、ベゴニア、インパチェンスなど、色とりどりの花苗を植え、たくさんの方に喜んでいただけるよう、定植したプランターは村役場の各庁舎・福祉施設の玄関に並べました。きつと訪れる人の心を和ませてくださいましょう。

